

「三島ゆうすい会研修旅行・南アルプス大井川源流の旅」 2008年6月21日～22日 —緑のトンネル、清い流れ、そしてちょっとスリリングな旅—

梅雨空のもと、満席のにぎやかなマイクロバスは、張り切って三島を出発。1日目は、行く先々で雨が上がりラッキーだった。雨に洗われた木々の新緑、一面に広がる川根の茶畑の美しさは例えようもなかった。大井川鉄道井川線の奥泉駅から井川駅まで約1時間トロッコ電車に乗り、急勾配の線区に使用されるア



畑薙大吊り橋で

プト式鉄道を体験した。時折、遙か眼下を流れるコバルトブルーの大井川に感動を覚えながら…。井川からは、片や急斜面の山、片や大井川の上流となる谷間、そして車1台がやっと通れるような林道をマイクロバスに揺られること約4時間、途中休みながら目的地に着いた。かつて豊富だった大井川の水も発電のため途中いくつかのダムに堰き止められ、水量は減っていた。源流となる川は奥深い幾つかの山から流出し、それぞれ山の鉱物質や土質の違いにより水の色も異なり、コバルトブルーや茶色の川は合流し、蛇行して流れていた。時々目に入るあちこちの土砂崩れの跡は、全くスリリングだった。

目的地の二軒小屋は3階建てのロッジ。1階は真新しく無垢の木材で改築したばかりのように見えた。何処のトイレも最新式で清潔、「こんな山奥でもね」と感動。食事は

イワナ、ウドなど、まさに地場産品を使用した献立で、皆を満足させたようだった。夜空の星が見られなかったのは心残りであったが。

夜通し降った雨は、次の日も上がらず、雨の中、希望者のみ帰り道を2時間ほど歩いた。フィトンチッドを浴び、珍しい植物や川の流に目をやりながら・・・さわら島では昨年オープンした写真館で白旗史朗氏の山の写真展を鑑賞し、その見事さに感動した。同時に昨年、賞を取ったという地元の無垢な木材を使って建てられた、温かみのある堂々とした写真館の建物に魅了されてしまった。様々な経済的理由はあるが、これからはこのような日本の優れた木材建築が盛んになり、昔のように整備された森が取り戻せたらと願わざるを得なかった。土砂崩れの危険も考慮し、予定していた映画鑑賞と温泉は省き、2時間ほど早く

帰路に着いた。全員無事三島に到着。天候のよい時、再度訪れてみたいと思った。



参加者（敬称略）

塚田冷子、小松幸子、秋山峰治、青木利治、浅井伸子、綾部訓子、岩田重理、大村院伸、大村洋子、木下秀彰、小林豊孝、佐伯忠夫、柴原俊介、柴原英子、中西康徳、福田淑子、水野幾子、山岡修一、山岡節子、渡辺恒雄、青木雅江

身近な水環境の全国一斉調査



雨の中・参加者たちは調査へ元気に出発

三島ゆうすい会は、「全国水環境マップ実行委員会」の呼びかけで始まった身近な水環境の全国一斉調査に参加した。今年で5回目を迎える。

まちなか源兵衛川～御殿川～桜川班（青木利治理事、大村洋子理事、大村院伸さん、佐藤久美子理事、塚田冷子会長）と大場川班（宇木勉理事、小松幸子副会長、中西康徳理事）に分かれて調査を行った。

今回の測定値（通常より大幅に高い値であった）に疑問があり、実行委員会に使用バックテストの有効期限が過ぎているのではないかと問い合わせをした。

メーカーの共立理化学研究所から問題ないとの回答を貰い、その後何回かメールのやりとりをしたが、釈然としないものを感じている。（しかし、

市民団体として実証手段がなくそのままにしているが、機会を見て確認を試みたいと思っている）。を取り）を付けた

平成 20 年度「みしまっ子体験塾」

応募で集まった三島市内の小学生 30 名（4～6 年生の男女）は、6 月 14 日（土）9：00～12：00、三島市生涯学習課主催の、みしまっ子体験塾「川であそぼう！水生生物と三島梅花藻の観察」に参加した。梅雨の晴れ間の好天気で、三島のせせらぎに入っの体験塾には、絶好の日和となった。

講師は、三島ゆうすい会の小松幸子副会長が務めた。三島市民生涯学習センターでの概要説明のあと、講師手作りのミニノート「川であそぼう！どんな生き物と、であえるかな？」が配布され、児童は、掲載の詩「ムクノキのこかげで」の朗読を聞き、小浜池の満水期と渇水期の写真を比較しての話や、水辺の生き物のこと等を聞いてから出発。三島市役所で実習中の大学生などのサポートもあり、野外活動は順調にスタートした。

菰池公園、桜川、白滝公園では、当会理事で「桜川を愛する会」の中西康徳さんの熱心な説明を受けた。塚田邸では、当会の塚田冷子会長から、ミシマバイカモやホタルの説明を受け、押し花にするよう、その場で間引きしたミシマバイカモを譲り受けて大喜びだった。また、源兵衛川では、当会理事で「源兵衛川を愛する会」の佐伯忠夫さんの市民活動のお話のあと、一緒に川に入り、歓声を上げながら、サワガニ等と遊んで富士山からの湧水の素晴らしさを満喫した。

しかし、小浜池に行ったことがある児童は僅かで、三島のせせらぎ事情を知らない家族が多いことは驚きであった。家族向けの体験塾を、当会で企画するのかもしれない。



源兵衛川のムクノキの下で遊ぶ「みしまっ子」たち

平成 20 年度「水と蛍のフェスティバル」が平成 20 年 6 月 7 日（土）15：00～20：00、三島市立公園楽寿園、源兵衛川、ほたるの里において実施された。

小池政臣三島市長、土屋俊博市議会議長の挨拶に続き、ボイスキュー小坂真智子さんの司会の下に、各種イベン

トが催された。

参加者は 10,000 人近く、フェスティバル始まって以来の入場者となった。イベント中には、ボイスキューの生放送もあり、子どもたちも楽しい時間を過ごした。



ゲストと一緒に、三島ゆうすい会のボランティアのメンバー

また、すぎなの園の方々による、マイバッグソングも披露され好評だった。今年初めて企画されたホテルトネル、ほたるの里や源兵衛川でのホテルの見学もあり、華やかな夜となった。無事にイベントが終了して、万々歳。今年の三島ゆうすい会会員のボランティアは、20 人ということで、他団体に比べ最大人数だった。皆さま、ご協力ありがとうございました。

三島警察署長 清 全(せいたもつ)氏の講演会 「中東の水と治安」

5 月 22 日（木）三島市民活動センター4F 会議室に、30 人余りが集まり、外務省出向時代の海外での津波の被災状況を伝える写真なども回覧しながら、清署長から貴重な話を聞いた。「どうも、話がよこみちになってしまうので、すみません」という署長の言葉に、会場は、そんな話がとても新鮮だという和やかな雰囲気だった。

最後に「三島の人というのは、水に関心があって意識が高い」と言われたことがとても印象に残る講演会となった。



和やかな雰囲気です清署長



講師の清署長を囲んで記念撮影

ゆうすいあれこれ

三島の川にモクズガニ放流

平成20年4月4日、平成18年の放流に続き、第2回目のモクズガニの放流を行いました。



さわじ作業所の人たちと一緒に

早朝、浜名湖畔に向かい浜名湖漁協から100kgの、モクズガニを買い受け、当日午後に菰池、桜川、山田川（上流と下流2カ所）夏梅木川でモクズガニの成長を願い放流を行いました。菰池では、偶然さわじ作業所のバスが通りかかり、利用者さんたちと一緒に放流をしました。

今年のカニは成長が遅く小形でしたが、数が多く食用が目的ではありませんので、我々には好都合でした。浜名漁協でも、

「小形のカニは引き取り手がありません」とのことで喜んでもらえ、来年の購入も約束してく



小さいけれど元気に育て！の願いを込めてれました。毎年続けることが大切だと言われています。

平成19年山田川で、「モクズガニを見かけました」と聞いています。平成18年に放ったカニが海に下って戻って来たのでしょうか？今年が楽しみです。

寺田町からのお客さん

5月7日、愛知県寺田町の8名の方々がNHKテレビ「小さな旅」を観て三島ゆうすい会塚田冷子会長宅を訪れました。

源兵衛川の上流で塚田会長のお話を聞いた後、大村洋子理事が源兵衛川を三島梅花藻の里まで案内しました。川の中を歩けることにまず驚き、寺田町の明光寺川もああしたい、こうしたいと夢が膨らんだようでした。

川岸へ花を植えたり、小中学生とバーベキューをして親交を深めている方々で、今回はもっと多くの人たちと源兵衛川を訪れたいとおっしゃって帰路につきました。



良いお天気に恵まれてみなさんと

水の勉強会

☆5月4日

日本大学三島高等学校放送部2年、同中学放送部2年の2人が全国高等学校放送文化祭オーディオフィクチャー部門に応募する下準備のため、三島の水、ホタル、ミシマバイカモの話を聞きに来ました。

☆5月27日

西小学校4年生2人がホタルの勉強のため、話を聞きに来ました。

☆5月12日

リベラヒューマンサポートの生徒7人、先生2人がホタルとミシマバイカモの見学に来ました。まだ、残っていたホタルの

幼虫を見せることが出来ました。水琴窟の美しい音色にも耳を傾けていました。

テレビでもホタルの話題

6月26日フジテレビ放送、朝7時20分ごろから「めざましテレビ」の番組内で、源兵衛川再生とホタルについて、放送されました。



インタビューの中で、塚田冷子会長が市民の協力もあって川が再生されたことを話していました。ホタルの時期は過ぎていましたが、夜、数匹のホタルが光って、子どもたちが喜んでいいる映像も写し出されていました。

「水と蛍のフェスティバル」反省会

7月5日、Via701で「水と蛍のフェスティバル」の反省会が行われました。三島ゆうすい会からも数人が出席し、本部や警備、模擬店でのボランティアに参加して良かったことなどを話しました。

また、東京からグループがホタルの見学に来たという話に驚いたり、来年、もっとよくホタルを見てもらえるのにはどうしたらいいかなどの提案もなされました。



活発な意見がどんどん出て

第3回 水よ輝け！三島の水辺写真 作品募集のお知らせ

★「水の都・三島」の復活を目指している「三島ゆうすい会」では、18年目を迎える2008年の今年、「水よ輝け！音楽」「水よ輝け！映画祭」にひきつづき、好評だった「水よ輝け！三島の水辺・写真展」を開催することになりました。三島の水辺を撮影して、どうぞ奮ってご応募ください。（同封のチラシをご覧ください）



- 応募作品** A4、4つ切り、4つ切りワイドいずれかの作品
募集期間 平成20年10月1日（水）～10月31日（金）
応募方法 応募票（三島ゆうすい会かHPからダウンロード可）に必要事項をご記入のうえ、応募作品と共に、三島ゆうすい会事務局へ、郵送またはご持参ください。作品はお1人2点まで。
- 展示発表** 三島市役所 玄関ロビー *展示日程 2008年12月1日（月）～12日（金）
- 応募の注意** 作品は未発表で、「三島の水辺」を撮影したもの。古い作品も歓迎します。コンテストではないので、審査はしません。応募作品は、三島ゆうすい会に寄贈していただき、使用权は三島ゆうすい会に帰属します。

定例の清掃予定

★いずれの定例活動も自由参加です。ふるってご参加ください！雨天時は原則として休みです。

【定例活動（作業等）】

●宮さんの川清掃

原則として毎朝6:00～

宮さんの川集合

長靴、軍手またはビニール手袋持参

「宮さんの川を守る会」とともに



●源兵衛川のいづみ橋から広瀬橋での草取りなど

原則毎週土曜日、日曜日の朝6:00～

源兵衛川いづみ橋集合

長靴、軍手またはビニール手袋、草取り道具等持参

「三島ゆうすい会」有志とともに

●源兵衛川清掃

原則として毎週第2日曜日13:00～

水の苑緑地・かわせみ橋集合、

長靴、軍手またはビニール手袋持参

「源兵衛川を愛する会」とともに

●桜川清掃

原則として毎月第1土曜日10:00～

白滝公園集合

長靴、軍手またはビニール手袋持参

「桜川を愛する会」とともに

●三島梅花藻の里保全活動

原則として毎月第2日曜日10:00～

三島梅花藻の里集合

長靴、軍手またはビニール手袋、草取り道具等持参

会費・ご寄付・資機材支援

●新規ご入会（敬称略）

青野雅江 浅井伸子

小林豊孝 福田淑子 渡辺恒雄



●ご寄付

南アルプス大井川源流の旅参加者

●会費ご入金

本年度会費（平成20年度分）を納入にご協力賜いますよう、よろしくお願い申し上げます。（詳しくは同封の案内をご覧ください）

★未納の方は、いずれかの口座へご入金くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

〈年会費金額〉

・正会費 3,000円

・賛助会費 1口10,000円

〈お振込み先〉

・郵便振替 0840-4-118192

加入者名：三島ゆうすい会

・静岡銀行三島支店

普通預金 No.0346532

・スルガ銀行三島セントラル支店

普通預金 No.572969

・三島信用金庫西支店

普通預金 No.1042399

口座名：三島ゆうすい会

会長 塚田冷子

